

多摩市農業委員会視察研修 (令和5年11月6日)

多摩市農業委員会は、秋の視察研修として、小平市と清瀬市にある4軒の農家さんを訪れました。

①東京におけるブルーベリー発祥の地 島村ブルーベリー園

敷地内に保存樹林のプレートがついた樺が何本もある、歴史を感じるお屋敷にお住まいの島村さんは、大学で花の栽培を専攻され、昭和51年にアメリカへ行きブルーベリーと出会いました。品種は暑さに強い



ラビットアイ。3か所の畑(70a)で700本のブルーベリーを育てており、古いものは42年ものだそうです。現在は息子さんが中心になり、収穫時はご近所に住む親戚のみなさんお手伝いをしていそうです。摘み取りのほかに地方販売をしており、北海道から九州まで固定客がついているとのこと。研修参加者の多くがブルーベリーを栽培していることから、剪定作業や収穫の仕方、害虫の扱い方法等々、多くの質問が出ていました。

②大規模体験農園

畑のおじさん 吉野農園

100a超の畑をもつ吉野さんご夫婦にお話を伺いました。体験農園、ハウス栽培、学校給食への納入等をされています。収入



の半分を占める体験農園は、17年前に35区画からスタートし、現在では123区画まで拡大しました。1区画の面積は30㎡で費用は5万円、グループ形式で行っています。小平では体験農園が5か所あり、それぞれに特色があるようです。

現在の利用者の年齢は24歳から83歳と幅広く、開始当初から参加している人は6人、最近は「子どもに食育を」という理念をもつ若い家族が増えているそうです。食べきれない野菜は、子ども食堂へ寄付しています。収入面のメリットはあるものの、反面、利用者の対応に熱中するあまり、自分の仕事が捗らなかつたり、後片付けなどの雑用が増えたりすることもあるとのことでした。農家さんは一般的に口下手な方が多い印象がありましたが、吉野さんご夫婦は共に雄弁で、体験農園の参加希望者が途切れない魅力も、そこにあるのではないかと感じました。

③小平でうど栽培!

にぎりや農園 小野さん

畑に従事しているのは奥様と2人の息子さん。夏は直売、冬はうどを中心に販売しています。奥様のために加工所を造られたとのこと、季節のジャム、ジュース、ソースなどを作って販売しています。「にぎりや」とは、その昔どぶろくを作っていたところからついた屋号とのこと(近所は小野さん姓だらけでした…)。

こちらの特色はなんといっても「うど」! 現在、小平でうど栽培をしているのは3軒のみだそうです、次の年にしっかりと芽が出



るように畑で一年間根株を育てた後、20℃に保たれた地下の室(むろ)に並べられます。旬は年末から3月頃までということです。

興味津々、実際に室に入ってみました!

内部は固い関東ローム層の赤土、空間は1.5メートルの高さで横幅はおよそ3mですが、想像していたよりも広く大きな空間に感じました。普段はなかなかできない、とても貴重な体験をさせていただきました。

④愛情野菜専業農家

ヤマヨシ 小寺さん

施設と露地栽培で野菜の周年生産をしている小寺さん。農地面積は463a。耕作物は、ホウレンソウ、カブ、人参、水菜で、「ハートベジ」というブランドで出荷しています。現在も、どんどん土地を借りて農地を増やしている、というお話があり、そのパイタリティの豊かさに、研修参加者一同「えっ!」と、言葉を詰まらせてしまいました。



小平市も清瀬市も、どこまでも真っ平な畑が続く風景が印象的で、参加者からは「山坂の多い多摩市とは違うなあ…」という声が聞こえてきました。

ただ、美味しい野菜を育てたい、消費者へお届けしたい、と強く思う熱意は、どの生産者も同じなのだとも感じた、今回の研修会でした。

(農業委員 武内 好恵)

(写真左上)果実畑でお話を聞く
(写真左下)体験農園内のハウス
(写真中下)室を体験する委員
(写真右中)広大な農場を見学

のうたんぼう 「農」探訪...

農地を訪ね、その地の息吹を感じる...

今回の「農 探訪」は、農業委員会が実施・参加した2つの研修について報告します

されたとき、都内で4人の農業委員がいる多摩市の事例報告を行いました。

今回は立川市開催で、その事例報告では、担当課長から、「女性委員が1名から4名に増加した」という報告がありました。立川市で女性農業委員が増えた決め手は、会長の考え方が大きいのはもちろんのこと、その意向に沿って農政担当者がアンテナを張り巡らし、多岐に渡る働きかけを重ねた努力もあり、農業者のほかに弁護士や市内にある都の外郭団体の元職員の方などが農業委員になられたそうです。

研修には32名の女性農業委員が参加し、立川市の報告を受けた後、現地でお話を伺うため、バス2台を利用して移動しました。

①立川市の中里さん

酪農と野菜栽培を中心に研修生を受け入れている中里邦彦さん・佳代子さんの畑を見学。佳代子さんからは、直売所での販売方法について伺いました。

枝豆やトマトの詰め放題が人気

だとか。野菜の自販機の売り上げは、多い



女性農業委員研修会 (令和5年11月9日)

多摩市農業委員会の女性委員4名は、東京都農業会議主催の女性農業委員研修会に参加しました。

以前に、この研修会が多摩市で開催

日で一日3万円にもなるとのこと! う〜ん、脱帽です!

②八王子市の金子さん

次に、八王子で酪農経営をしている金子キミ代さんにお話を伺いました。

金子さんは、50頭の牛を育て、自分の畑で採れた野菜や果物で季節のアイスを作り、「道の駅滝山」で販売しています。

お店の名前は「ミルクハウス

MO-MO」、香料は使わず、自然な甘さで大好評! 週末には行列が絶えないほどの人気ぶりです。

以前から生乳と畑の野菜を使ったアイスの製造販売を夢見ていた金子さん。

「遊ぶお金が欲しかったのよ!」と、頑張って貯めたお金で、道の駅へ出店することを決意し、開店までこぎつけました。今では正社員2名、アルバイト7名を雇用してお店を回しています。

古希を過ぎてもお元気な金子さん。季節の新メニューを心待ちにしているリピーターに応えるために、これからも新商品の開発に挑戦していかれるということです。

ここで紹介させていただいたお二人とも、女性農業者として力強く営農されており、さらにお客様の心をつかむアイデアにも富んでいて、見習いたい、あやかりたいポイントがいくつも見つかった、女性農業委員研修でした。

(農業委員 武内 好恵)

(写真左上) 中里佳代子さん
(写真左下) 整然とした中里さんの畑
(写真右上) 金子キミ代さん
(写真右下) 山ブドウと栗のアイス

